

歴史に埋没した日本の独創録音技術

登録番号	第 00196 号		
登録年月日	平成27年9月15日	登録区分	第一種

名称 (型式等)	卓上型フィルモン／円板兼用再生機
所 在 地	石川県金沢市
	金沢蓄音器館
所 有 者 (管理者)	金沢市
製作者(社)	日本フィルモン株式会社
製 作 年	1937年
初 出 年	1937年
選定理由	長時間録音レコードで8分しか録音できなかった時代に、36分の録音を可能にした日本の独創となる画期的な技術である。1930年代、清元、長唄、落語他の人気の名手達の登場により、30分以上の記録時間が熱望されていた。当時の記録時間は長時間盤で8分、通常SP盤で5分弱であり、溝を長くしたり、記録密度を上げるための画期的な方法の登場が望まれた。本機は、全長13m幅35mmのフィルムを小さく23回巻いてエンドレス化し、そのフィルム上に、らせん状に100周分の溝を記録し、36分の記録再生を可能にした。
登録基準	ーイー（科学技術の発展の重要な側面及び段階を示すもの）

公開・非公開	公開
写 真	
その他参考となるべき事項	